

令和 7 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
畜産部門

飼育管理の DX 化・耕畜連携・ブランド化が好循環する肉用鶏経営

○氏名又は名称 株式会社 ヤマニファーム（代表 井上 孝秀）

○所 在 地 高知県幡多郡大月町

○出 品 財 経営（肉用鶏）

○受 賞 理 由

・地域の概要

高知県の足摺岬に近い大月町は、総面積 102.73km²、海拔 50m であり、西に豊後水道、南に太平洋と海に囲まれた形をしている。大月町では、農業と漁業の 1 次産業と観光産業が基幹産業である。農業では、農家戸数は 132 戸であり、稲作、葉タバコ栽培、施設園芸（なす）が盛んである。畜産業では、農家戸数は 4 戸で、酪農家 1 戸、肉用牛農家 1 戸、養豚 1 戸、肉用鶏 1 戸が営まれている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

株式会社ヤマニファームは、代表取締役の井上孝秀氏が大学中退後、平成 10 年に愛媛県の実家で肉用鶏飼育管理と生鳥運搬・飼料運搬に従事した後、高知県にて高齢で経営を中止する肉用鶏農場を平成 11 年に受け継いだ。スーパーL 資金や畜産クラスター事業を活用して規模を拡大し、畜産 DX の導入や耕畜連携、アニマルウェルフェアに配慮した食鳥処理場を活用した肉用鶏のブランド化等を行った。創業時から 24 年で 7.4 倍の規模拡大に成功し、飼育羽数（年間約 150 万羽）及び出荷羽数（年間約 150 万羽）で四国第 1 位となった。

・受賞者の特色

（１）飼育管理の DX 化による生産性向上と飼料ストック基地による飼料費削減等

- ① 肉用鶏の飼育に必要なデータをデジタル化・見える化して飼育管理マニュアルを作成し、管理者全体で共有することで、生産成績が飛躍的に向上した。
- ② 飼料ストック用基地に常時 30t 以上の飼料を自社車両により効率的に運搬・備蓄し、飼料費を削減するとともに、家畜伝染病発生時の対策や南海トラフ巨大地震等の大規模災害への対策を講じている。

（２）地域と連携した肉用鶏やレモン栽培のブランド化

- ① 地域生産の飼料用米、アニマルウェルフェアに配慮した食鳥処理施設での加工等を条件とした肉用鶏をブランド化し、地域の産物としている。
 - ② 鶏ふんの焼却灰を活用した鶏ふん堆肥を生産配布し、地域の耕畜連携を実現するとともに、堆肥を施用したレモン栽培とブランド化を展開している。
- これらのブランド化には、妻（のり子氏）、娘（実果子氏）の役割が大きい。

・普及性と今後の発展方向

飼育管理の DX 化による生産性向上や飼料ストック基地による経費削減・災害対策、鶏ふんを利用した耕畜連携、地域との連携等による肉用鶏のブランド化による販路拡大を図る取組は、肉用鶏経営の優良事例であり、更なる発展が期待できる。